

総合計画第2次基本計画「目標とする指標」の進捗状況（平成26年度実績）

1 「目標とする指標」の定義

総合計画第2次基本計画では、新世紀創造プロジェクトの取組みの体系に沿って、政策テーマ毎に数値化可能な施策について「目標とする指標」を設定し、それぞれ5年間で達成すべき目標値を示すとともに、年次目標を設定している。

このような評価的視点に立った進捗管理を継続していくことで、各政策分野における施策の整合性の確保や効率性の向上へ繋げ、総合計画に掲げる都市の将来像実現を図る。

2 「目標とする指標」の進捗状況（各年度の目標値ベース）

		指標数	評 価 ※()内は H25 年度実績					備考
			A ⁺	A	B	C	D	
新世紀創造プロジェクト	1 交流・観光	13(14)	8(9)	1(1)	1(2)	2(2)	1(0)	集計中 1 件
			62%(65)	7%(7)	7%(14)	14%(14)	7%(0)	
	2 歴史・文化	7(9)	3(2)	3(6)	0(1)	0(0)	1(0)	隔年指標 2 件は除外
			43%(22)	43%(67)	0%(11)	0%(0)	14%(0)	
	3 ものづくり	16	12(11)	1(1)	1(1)	1(1)	1(2)	
			76%(69)	6%(6)	6%(6)	6%(6)	6%(13)	
	4 安全・安心	32	15(17)	9(9)	4(1)	1(3)	3(2)	
			47%(54)	28%(28)	13%(3)	3%(9)	9%(6)	
	5 人づくり	11	1(2)	3(6)	4(2)	2(0)	1(1)	
			10%(18)	27%(55)	36%(18)	18%(0)	9%(9)	
合 計		79(82)	39(41)	17(23)	10(7)	6(6)	7(5)	集計中 1 件
			48%(50)	22%(28)	13%(9)	8%(7)	9%(6)	

※指標の達成度を5段階評価

A⁺：100%以上 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満

3 新世紀創造プロジェクト別の分析と評価

1 交流・観光

○プロジェクトを代表する「目標とする指標」

主な指標	H25	H26	H26 目標値	H28 目標値
高岡駅及び新幹線新駅の乗降客数（人/日）	15,036	集計中	16,000	18,000
中心商店街（6 地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値（人）	12,308	17,702	12,900	14,000
高岡市の観光客入込数（人）	3,629,729	3,470,538	4,201,000	4,500,000

分析と評価

J R 西日本によると、新幹線開業から 6 月末までの新高岡駅の乗車人数は 1,600 人/日（自動改札機・通過者のみの速報値）と公表しており、あいの風とやま鉄道は、新幹線開業後の高岡駅の乗客数は未公表である。高岡駅はクルン高岡（H26.3 オープン）、高岡駅地下街（H26.6 オープン）、新高岡駅は北陸新幹線開業に伴う駅見学者や団体客の増加により、駅利用者は確実に増加していると考えられる。

都市計画道路の整備率について、年次目標を達成しており、高岡の拠点性を高めるアクセス道路の整備が進んでいるものと評価できる。

高岡駅周辺整備事業の完成により、高岡駅前の歩行者通行量は飛躍的に増加しており、今後は駅周辺に生まれた賑わいと活気を中心市街地へ呼び込んでいくとともに、ストリート構想や中心商店街との連携イベントによるまちなかの回遊性の向上、更には新高岡駅と高岡駅の都心軸を強化し、新高岡駅からまちなかエリアへ人を呼び込むことが必要と考えられる。

現在、新幹線の利用促進策として通学定期助成や県西部地域の官民が一体となって「一人一客・一人一乗車運動」を実施しており、引き続き開業効果の持続につながるような施策展開が必要である。

観光分野について、H26 は周年事業（戸出七夕まつり（50 周年）、中田かかし祭り（30 周年））や高岡市美術館企画展が好調（「ドラえものの科学みらい展」が最多入場者数を記録）であった前年度に比べ、貸切バスの料金改定（値上げ）による団体旅行の減少などが影響し、観光客入込数は減少となった。しかし、着地型旅行商品の参加者数や「新たな食の名物」の売上食数、観光ホームページのアクセス数は年次目標を大幅に超えており、豊富な歴史資産や食材を活用した観光資源の開発や観光地としての魅力発信が進んでいるものと考えられる。今後は、新幹線の開業効果を持続させるため、新幹線沿線地域や飛越能地域への出向宣伝、富山県西部地域や飛越能地域との連携強化による広域観光の推進などを通じ、効果的な誘客に繋げていきたい。

今後の主な取組

- ・高岡駅周辺の整備（北口駅前広場、駅前東地区、末広町西地区）
- ・総合交通戦略の推進（新高岡駅二次交通機能強化調査、あいの風とやま鉄道新駅整備、万葉線 I C 化等）
- ・新高岡駅への「かがやき」の停車実現に向けた新幹線利用促進策の推進
- ・中心市街地活性化計画の推進（たかまちプロムナード事業、まちづくり資金支援事業）
- ・まちなかの回遊性向上（ストリート構想の推進）
- ・広域観光の推進（たかおかプロモーション大作戦、コンベンション誘致）
- ・観光拠点の整備（御車山会館、藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー（仮称））

2 歴史・文化

○プロジェクトを代表する「目標とする指標」

主な指標	H25	H26	H26 目標値	H28 目標値
歴史・文化施設入込者数(人)	970,441	1,004,769	1,050,460	1,120,000
伝統産業の販売額(億円)	129.5	隔年集計	—	138
地場産業従事者数(人)	1,538	隔年集計	—	1,750
市立公民館の利用者数(人)	522,410	524,265	518,000	527,000

分析と評価

万葉歴史館の利用者数を除き全ての指標がA評価であった。「歴史都市高岡」のイメージは、平成23年の歴史都市の認定後、金屋町重伝建地区の選定など文化財の価値の向上、旧町名復活による住民意識の高揚、各種フォーラムや万葉遊楽宴などのイベント開催により徐々に浸透しているものと考えられる。

このたび「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心一」として高岡の町民文化が日本遺産に認定されたことは、本市の歴史的、文化的価値にまた一つ厚みが加わり、世界に通じる「歴史都市高岡」の構築につながるものと考えられる。今後は、シティプロモーションの観点から国内外への日本遺産の発信に努め、歴史遺産の保存と併せて、これを活かした観光振興、都市の魅力向上に繋げていく必要がある。

生涯学習の分野においては、公民館の利用者増や生涯学習センター自主講座の受講者増など、生涯学習の機会を通じた市民活動の拡大傾向が見て取れる。今後は、既存施設の魅力アップや回遊性の向上を図るとともに、「文化創造都市高岡」の構築に向け、「創造の場」の形成や文化力を活かした産業振興などが重要である。

今後の主な取組

- ・都市のブランドイメージの構築（歴史都市、文化創造都市）
- ・「おくのほそ道の風景地」国名勝指定関連（おくのほそ道の風景地ネットワークの推進、義経岩踏切線や（仮称）道の駅雨晴整備など）
- ・ストリート構想の推進（山町筋・金屋町間、伏木地区）
- ・若手伝統技術者の養成（養成スクール、希少技術継承）
- ・伝統技術を発揮する場の創造（文化財の修理、平成の御車山）

3 ものづくり

○プロジェクトを代表する「目標とする指標」

主な指標	H25	H26	H26 目標値	H28 目標値
製造品出荷額(億円)	3,776	3,905	4,760	5,300
うるち米の1等比率(%)	84.3	83.2	90.0	90.0

分析と評価

高岡市の製造品出荷額は、平成20年のリーマンショックの影響により大幅に減少したが、平成26年（平成24年実績値）はリーマンショック以降、初めて増加に転じ、平成27年（平成25年実績値）も4,057億円となっていることから、回復傾向にあるものと考えられる。

企業訪問による支援件数や新分野開拓チャレンジ補助事業の採択件数、企業立地助成金の交付件数が大幅に目標を達成しており、新産業創造プラットフォームに基づく取組みが浸透しているものと考えられる。企業団地の分譲について、高岡砺波スマートICの供用開始など充実した交通網を背景に、本年6月に高岡オフィスパークを完売するなど、目標は未達成であるが、毎年確実に分譲が進展している。引き続き立地動向アンケートやヒアリング調査などを通じ、安全・安心な魅力ある立地環境をPRするとともに企業ニーズの正確な把握に努め、早期の分譲完了を目指す。

農業の振興においては、うるち米の1等比率が目標未達成ながら高い水準を維持、大麦の1等比率と大豆の上位等級比率については目標を達成しており、農業利用集積率が年度目標値を達成するなど、安定的かつ効率的な集約型の営農体制づくりが進んでいるものと評価できる。特産品のブランド化や生産から加工・販売までを一貫的に取り組む6次産業化や地産地消を更に推進し、新たな視点から農業の振興を目指す必要がある。

今後の主な取組

- ・高岡市産業振興ビジョンの見直しによる体制強化
- ・ものづくりのブランド力向上、魅力の発信
- ・創業促進支援（創業者の掘り起しと創業者のためのサポート体制の充実化）
- ・企業の地方拠点強化・雇用創出を見据えた企業立地態勢の強化
- ・6次産業化と地産地消の推進

4 安全・安心

○プロジェクトを代表する「目標とする指標」

主な指標	H25	H26	H26 目標値	H28 目標値
健康寿命（歳）	男性 77.47	男性 77.69	男性 77.74	男性 78
	女性 82.00	女性 82.31	女性 81.88	女性 82
市民活動情報ポータルサイトの登録団体数(団体)	152	154	164	180
通訳・ホームステイ等のボランティアの登録者数（人）	98	129	96	100
ごみの再生利用量（t）	17,820	16,636	16,280	16,580
公共交通の利用者数(人)	3,641,000	3,559,294	3,758,000	4,000,000
公共施設の耐震化率(%)	77.0	85.1	81.0	95.0

分析と評価

女性の健康寿命が最終目標値を超え、介護予防事業や健康づくり活動における参加者数が毎年増加していることなど、地域包括ケア体制の構築により市民が健やかに生活できる環境づくりが進んでいるものと評価できる。また、子育て、障害者、高齢者の相談件数が年次目標を大幅に超えるなど、市民が生活環境やライフステージ、身体状況に応じて利用しやすい相談体制の構築が進んでいるものと考えられる。

H27 は福祉保健分野における個別計画（高齢者保健福祉計画など）を包括する地域福祉計画（第2期）を策定し、高岡型の地域福祉ネットワークの構築や災害時の要配慮者への支援体制整備などを重点目標として取組むこととしている。社会情勢や地域福祉を取り巻く環境の変化に伴う新しい生活・福祉課題や近年多発している自然災害への対応について、地域の組織団体、福祉関係者、ボランティア、事業者等と市が協働し、総合的・計画的に地域福祉を推進することが重要である。

市民活動情報ポータルサイトへの登録団体数が年次目標の9割を超え、アクセス件数も年次目標を達成していることから、市民活動団体の情報発信が効率的かつ効果的に図られているものと考えられる。また、通訳・ホームステイ等のボランティアの登録者数が前年度から大幅に増加しており、多文化共生社会の構築も進んできているものと評価できる。

公共交通の利用者は、昨年度の実績値と比較し 2.2%程度減少している。交通機関ごとの利用者数の内訳では、万葉線はイベント開催やドラえもんトラムが好評で利用者は増加、コミュニティバスも高岡駅周辺整備の完了に伴う利便性向上により、利用者が増加した。一方、民間路線バスの利用者は毎年減少傾向にあることから、新幹線の開業に合わせて、新高岡駅まで路線の延長を図り、アクセス強化・利便性向上を図っている。加えて、利用実態に応じて路線の再編・見直しを実施し、持続可能な公共交通を目指している。

公共施設の耐震化率や災害時の備蓄物資の充足率は年度目標を超えており、災害に強いまちづくりが進んでいる一方、わがまち訓練の実施地区数が目標未達成となっており、自主防災組織や校下連絡協議会の設置など、住民が自主的に企画・参加する防災訓練の実施を更に促すことが重要である。

今後の主な取組

- ・ 地域看護・介護システムの強化
- ・ 看護専門学校を整備
- ・ 地域包括ケア病棟の創設（市民病院）
- ・ 総合交通戦略の推進（新高岡駅二次交通機能強化調査、あいの風とやま鉄道新駅整備、万葉線 I C 化等）
- ・ 空き家対策（空家等対策の推進に関する特別措置法の施行を受けた体制の強化）
- ・ まちなか再構築（防災対策の推進）

5 人づくり

○プロジェクトを代表する「目標とする指標」

主な指標	H25	H26	H26 目標値	H28 目標値
子育て支援施設（子育て支援センター）利用者数(組)	31,366	30,540	35,800	39,500
ものづくりデザイン科の授業を通し、「地域やものづくりについての理解を深め、郷土に誇りを持つ心を育むことができた」児童生徒、教員数の割合(%)	児童生徒 91.3 ----- 教員 94.8	児童生徒 91.8 ----- 教員 92.5	児童生徒 76 ----- 教員 76	児童生徒 80 ----- 教員 80
体育施設の利用者数(人)	709,136	724,724	725,000	750,000

分析と評価

H25 まで特別保育（病児病後児保育）を実施する保育園の割合は伸び悩んでいたが、高岡ふしき病院（H27.1.15 開始）と双葉保育園（H27.4.1 開始）が病児保育を実施したことに加え、H27 から体調不良児型保育の補助要件が緩和されたことから、特別保育の環境整備は更に促進されるものと考えられる。平日 19 時まで開設が可能な体制を整えることができる放課後児童育成クラブの数について、H27 から各クラブにおいて人数規模・面積基準などの運営規程を設けることから、この機会を捉えて基準を満たさないクラブは、教育委員会、学校、地域と連携を図り、各クラブの利用者ニーズ等を見きわめながら、平日 19 時までの開設体制を促す。

教育の分野では、ものづくり・デザイン科や高岡再発見プログラムなど、高岡市ならではの教育を継続して推進することにより、児童生徒の郷土意識の醸成が図られているものと評価できる。一方で、ものづくり・デザイン科の授業や作品について、子どもと会話した保護者数の割合が目標値を下回っていることから、親子でものづくり・デザイン科の授業や作品について共有できるように、授業公開や作品展覧会等の機会の提供を進める必要がある。

体育施設については、長慶寺室内プールの改修工事により一時的に利用者が減少したものの、全体的には横ばいであった。またスポーツ教室の参加者数については、長慶寺室内プールが工事により約 2 カ月間閉館していた影響により減少している。今後は、本年 5 月に供用開始となった高岡西部総合公園野球場や現在整備を進めている総合体育館など、新たな拠点施設を積極的に活用したスポーツ教室やイベントの開催により充実を図り、生涯スポーツ体制の構築と競技スポーツに取り組むことができる環境づくりに努める必要がある。

今後の主な取組

- ・子育て総合情報システムの運用（アプリによる子育て世代への情報発信、情報交換等）
- ・牧野みどり保育園の民営化
- ・ものづくり・デザイン科の推進（10年目に伴う効果検証の実施）
- ・総合体育館の整備